



令和7年度 全国学力・学習状況調査結果の概要について

御嵩町（組合）教育委員会

1. 調査の概要

（1）調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るため。
- ◇学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てるため。
- ◇教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立するため。

（2）対象学校・児童生徒

御嵩町内公立小中学校 【小学校3校（6年生）、中学校3校（3年生）】

（3）調査内容

教科に関する調査

【国語、算数／数学、理科、生活習慣や学習環境に関する質問調査】

（4）調査日

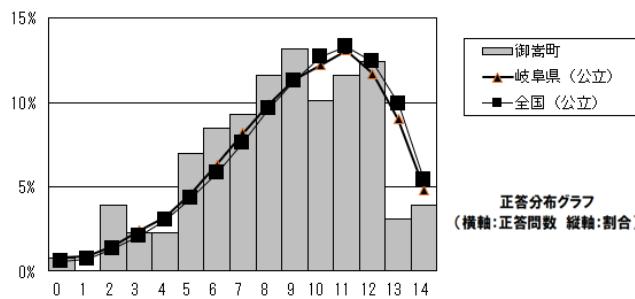
令和7年 4月14日（月）～17日（木）

2. 御嵩町における調査結果の概要

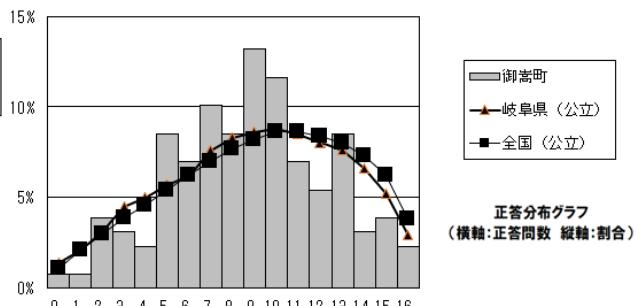
（1）教科における調査結果

- 小学校の国語、算数、理科は全国平均よりやや下回っている。

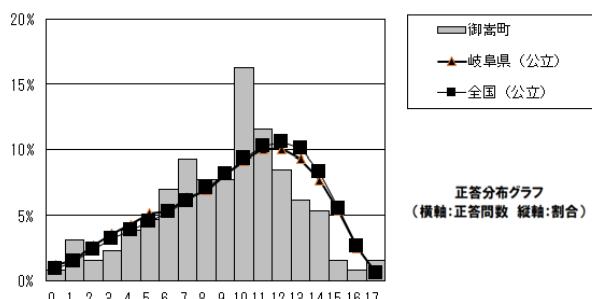
小学校国語



小学校算数

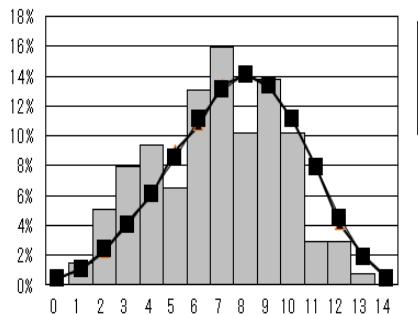


小学校理科

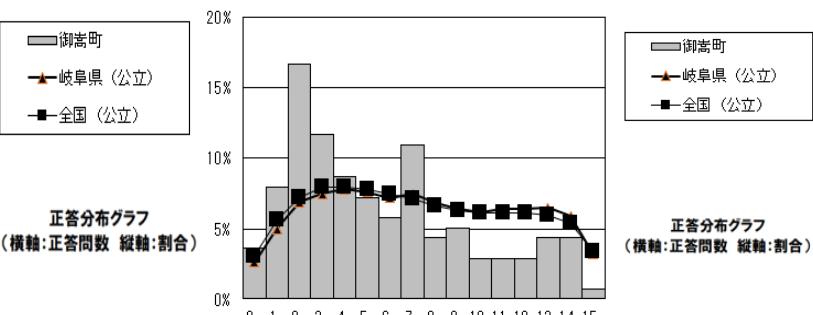


○中学校の国語、数学は全国平均より下回っている。理科は、全国平均並みである。

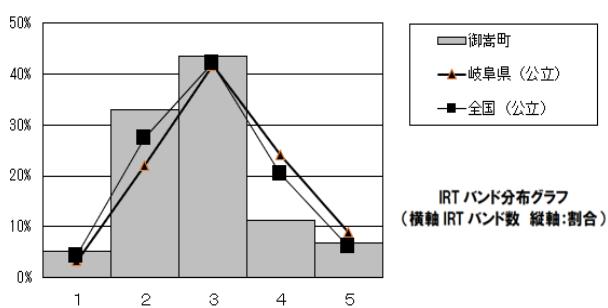
中学校国語



中学校数学



中学校理科



※IRT バンドとは、得点したスコアを基に1～5の5段階に区切ったもの。平均は「3」、「5」が最も高いバンドとなる。今後全国平均「3」を基準値とし、経年比較が可能な形にしたもの。

(2) 各教科の調査結果の概要から見た成果 (○) と課題 (●)

【小学校国語】

- 学年で学習する漢字表に示されている漢字を、文中で正しく使うことができる。
- 根拠をもとに適切な情報を結び付けて文を作ることができる。
- 提示された文章から課題となっている内容を見つけることに弱さがある。
- 相手に質問したい内容を文章にすることに弱さがある。

【小学校算数】

- データ活用領域で、簡単な二次元の表から条件に合う項目を選ぶことができる。
- 図形領域で、図形の面積の求め方を式や言葉を用いて説明することに弱さがある。

【小学校理科】

- 乾電池のつなぎ方を正しく示すことができる。
- 水が温度により氷に変わる様子を、「粒子」を使って説明することに弱さがある。

【中学校国語】

- 語彙を意識して正しく言葉を使うことができる。
- 手紙を読む相手の立場に立って、文章を整理することに弱さがある。
- 相手に伝わる文章を構成したり表現したりすることに弱さがある。

【中学校数学】

- データ活用領域で、確率の問題に正しく答えることができる。
- 自分の考えを記述することに弱さがある。
- 筋道を立てて理由を説明することに弱さがある。

【中学校理科】

- 身の回りの事象から生じた疑問について課題を見出すことができる。
- 授業を通じて学んだことを日常と関連付けることに弱さがある。

(3) 課題解決への手立て

小学校の国語・算数・理科においては、基礎的・基本的な知識及び技能の習得に重点を置いた指導が必要です。そのため、児童の実態に応じて、柔軟な指導の手立てを構築していくことが大切になります。例えば各教科において次のような手立てが考えられます。

- ・国語科：情報を読み取る力と推測力を段階的に育成していくために

○低学年

「だれが？」「なにを？」「どこで？」の5W1Hに関する内容を、学習内容に応じて指導者が選択し、繰り返し問う活動を位置付ける。

○中学年

文章の内容から読み取った5W1Hを児童が選択し、仲間に問う活動を位置付ける。

○高学年

視点を変えて読み取った内容を交流する活動を位置付ける。

- ・算数科：「図形の面積の求め方」の理解を深め表現する力を育てるために

○低学年

ものの形の特徴を理解することができるよう、条件に合わせて図形を弁別したり、構成要素に着目して図形を作ったりする活動を位置付ける。

○中学年

面積の求め方の理解を深めるために、図形のどの長さが分かれば面積を求めることができるのかを、公式と関連付けて説明する活動を位置付ける。

○高学年

面積や体積を求める時に必要な長さを図形から選び取った際に、その長さを選択した根拠を問うことで、面積を求めるために必要な長さの理解を深める指導を位置付ける。

- ・理科：温度によって物質の様子が変わることを粒子で考える力を育てるために

○中学年

粒子の動きをイメージしやすいように、模型を用いた指導を位置付ける。

○高学年

物の溶け方の学習で、物質の粒の集まりがどう変わったのか問う場面を位置付けており、物の燃え方の学習で、空気中にどのような気体の物質があるかを粒子で表現する活動を位置付けたりする。

中学校の国語・数学・理科においては、目的に応じて自分の考えをまとめたり、筋道立

てて説明したりする力の向上に重点を置いた指導が必要です。

- ・国語科：文章校正の基礎を身に付けるために

記述した文章が読み手に伝わりやすいものであるかどうかを仲間同士で振り返ったり、より伝わりやすい文章に校正するための表現方法について、仲間の記述から考え合ったりする活動を位置付ける。

- ・数学科：筋道立てて説明する力を育てるために

順序立てて説明する際の大まかな流れを、ポイントを絞って板書に示したり、正しい順序ではない表記を提示し、どのように順序立てるとよいかを話し合う活動を位置付けたりする。

- ・理科：目的に応じて自分の考えをまとめるために

どの実験結果から考察したのかを問う発問をしたり、交流したことを元に自分の考えを再考し直す活動を位置付けたりする。

（4）「児童生徒質問紙」に関する調査結果の概要と課題に対する手立て

各質問項目における回答の割合（回答1「当てはまる」と回答2「どちらかといえば当てはまる」に該当する結果）は、小学校、中学校ともに全国平均並みでした。その中でも、全国平均と比べ特に高かったり、低かったりした項目について、以下に示します。

【小学校 生徒質問紙結果】

△	質問内容	御嵩町	全国
上回る	人の役に立つ人間になりたいと思う。	98.5	96.4
	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法を決めている。	87.8	83.3
	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。	84.8	80.3
下回る	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う。	81.7	87.4
	ICT機器を活用することで、分からぬことがあった時に、すぐ調べることができる。	83.2	89.2
	ICT機器を活用することで、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる。	77.9	84.6

【中学校 生徒質問紙結果】

△	質問内容	御嵩町	全国
上回る	地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがある。	34.8	29.5
	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーションを作成することができると思いますか。	84.4	76.6
	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。	83.7	77.3
下回る	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。	62.4	73.2
	1, 2年生のときを受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。	29.1	53.7
	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか。	53.2	63.3

小学校においては、「人の役に立ちたい」という思いをもって学校生活を送っている児童の割合が高くなっています。また、授業や学級活動において、主体的に考えよりよい方法を仲間と協働的に学びながら日常生活を送っていることが分かります。今後は、新しく更新されたタブレット端末を、学習ツールとして利活用できる子どもたちを育てる指導を行っていくこと、「分かるまで教えてほしい」という子どもたちの思いに応えられるよう、授業改善を進め自己肯定感や自己満足感の醸成を図っていくことを大切に取り組んでいきます。

中学校においては、主体的に学びに向かう生徒の育成に向けた指導が行われており、生徒にもその実感があることが分かります。また、部活動の地域展開により、地域の大人とのかかわりが増えたことが生徒の意識の中にはあります。今後は、生徒の困りごとを、近くの大人や教職員に相談できる雰囲気づくりをさらに進めています。ICT機器の活用は、今年度端末更新が行われたため、今後活用の充実を図れるように取り組んでいきます。

3. 全国学力・学習状況調査の活用について

本調査の結果は、町内6校の教頭先生と教育委員会で組織する学力向上推進委員会で共有し、各校における教務主任を中心とした学力向上を司る組織で具体的な手立てを明確にして、授業改善に取り組んでいきます。